

取締役会・理事会協議内容

開催日時: 2026年3月28日 午後4時～		開催場所: ブリックアンドウッドクラブ		
出席者（敬称略） リモート参加者も議決権を有す、委任は理事会のみ				
取締役兼理事 11名	議場	田井（理事長）、木内（副理事長） 上西、加藤、北島、草深、塩田、橋本 村瀬	以上11名出席	
	リモート	生木、村岡		
	欠席	なし		
執行役員兼理事 3名	議場	野村	以上1名出席	
	リモート	なし		
	欠席	片岡、中川		
最高顧問兼理事 1名	議場	坂	以上1名出席	
	欠席	なし		
以上 理事 15名 取締役 11名			理事：委任状、代理を含め15名出席 取締役：委任状、代理を含め11名出席	
監査役兼監事 2名	議場	角川	以上1名出席	
	リモート	なし		
	欠席	高橋		
傍聴	理事でない 執行役員 3名	議場	篠本、雪、鈴木	以上3名出席
	その他	議場	松本、白山	以上2名出席
	リモート	なし		

理事会は議事を行うための定足数を充足、取締役会も議決を行うための定足数を充足。

理事会

「議事」

1. 委員会報告

①競技委員会（加藤委員長）

- ・月例会の結果報告
- ・4月の競技日程について等

②クラブライフ委員会（上西委員長）

- ・ツームストーンコンペについて
- ・開場記念祭について等

③グリーン委員会（北島委員長）

■ 2月の作業内容

- ・2月休場日に2H奥、3H赤ティ横、5H奥のカート道路補修工事を実施した。アスファルト舗装についてはACORNが担当したが、近隣の村人がメインに働いており、BWCと良好な繋がりを維持するためにも見かけたら挨拶してほしい。
- ・9Hと18Hのカート道路斜面にゴムのボール止めをつけた。6Hにもつける予定。
- ・10Hを軽量で新しいバンカーレーキにした。他のホールも予算を見ながら順次交換予定。

- ・9H 黒ティから飛球線上左の高木を伐採した。夏までに 11H 等の干渉する木を順次伐採予定。
- ・2H をスタートにフェアウェイのバーチカットを始めた。

■今後の作業

- ・グリーンは 3 月 31 日よりエアレーションを始めるので、グリーンスピードが少し遅くなる。
- ・5H グリーン奥は松の根を切った跡を修理地にしてあり、夏ごろには生えそろうと見込まれる。

■研修会報告

- ・薬剤散布をお願いしている東京アグリビジネスの開催する研修会が 1 月 28 日にあり、グリーン委員会委員長が出席した。(内容については別紙参照)

④広報委員会(野村委員長)

- ・ニューズレター春号に掲載予定の内容について

⑤ジュニア委員会(草深委員長)

- ・直近、暖かくなったこともあり参加者が増えてきている。

⑥ハンディキャップ委員会

- ・特になし

⑦フェローシップ委員会(塩田委員長)

- ・フェローコンペの後にボールマーク直し、目土を実施
- ・委員会において建物の保険についての質問があった。
→火災保険、賠償責任保険、ゴルファー保険等の必要な保険は加入済み

以上

取締役会

開催日時 2026年3月28日（土曜日）午後4時～

開催場所 ブリックアンドウッドクラブ 理事会と同時開催。

リモート参加を可とし、リモート参加者も出席者として議決権を有する。

議題

1. 議決事項

(1) 株式譲渡承認について

(金額は税込)

株種類	譲渡人（敬称略）	譲受人（敬称略）	備考
普通	(株)コジロー	金木 貴嗣	紹介者：メンバー渡辺敦彦様 名変110万
普通	(株)コジロー	井出 裕子	紹介者：メンバー檜垣昭子様 名変110万

→上記（1）について、異議なく了承された。

2. 報告・協議事項

(1) 直近のゴルフ場の営業状況について

(日、人、万円)

	前月	前年同月	前年比	内平日	前年比	内土日祝	前年比
営業日数	20	23	▲ 3	11	▲ 2	9	▲ 1
来場者数	1,545	1,876	▲ 331	594	▲ 449	951	118
うち M	847	1,049	▲ 202	216	▲ 177	631	▲ 25
G	386	501	▲ 115	167	▲ 157	219	42
V	129	137	▲ 8	89	▲ 48	40	40
N	183	189	▲ 6	122	▲ 67	61	61
増加率/全体			▲ 17.6%		▲ 43.0%		14.2%
売上高	1,472	1,726	▲ 255	577	▲ 378	895	124
増加率			▲ 14.7%		▲ 39.6%		16.0%

売上高累計	40期	39期	前年比	前年比
(9月-前月)	14,928	14,478	450	3.1%

3月ゴルフ場営業状況（27日まで）

(万円、人)

	売上高合計	平日	土日祝	前期	前期増減	前期比
売上高	2,177	1,213	964	2,208	▲ 31	▲ 1.4%
来場者数	2,327	1,298	1,029	2,192	135	6.2%

今期：平日19日/土日祝8日、前期：平日15日/土日祝9日

2月は降雪やメンテナンスにより営業日数が少なかったため売上は不芳であり、前年同月比の実績としても厳しい結果となった。売上増加率は▲14.7%、来場者数は前年同月比▲331名となった。累計ベースの売り上げは前年同月比+3.1%と若干のプラスで推移中。

アクティブメンバーの増強が必須な状況であり、新会員の募集や既存メンバーの活性化等に注力していく必要がある。

(2) 直近のブルーリーフの事業収支について

(円)

項目	ホテル	レストラン	マーケット	共通	合計	前月比
売上	189,330	3,452,245	849,165		4,490,740	281,813
仕入原価		1,397,955	468,577		1,866,532	342,954
粗利	189,330	2,054,290	380,588		2,624,208	▲ 61,141
人件費				2,367,565	2,367,565	▲ 295,718
消耗品	35,379	185,366			220,745	59,471
家賃	300,000	300,000			600,000	0
清掃費	78,000	78,000	78,000		234,000	234,000
支払手数料		42,419	13,695		56,114	▲ 34,910
リクルート	1,090	13,980			15,070	▲ 14,051
POSレジ利用料			5,455		5,455	0
水道光熱費	7,375	3,803		174,460	185,638	15,507
通信費	9,500	7,815	7,000		24,315	7,815
セコム	50,000		14,000		64,000	0
防犯カメラ			30,200		30,200	12,300
ソフトクリーム				17,900	17,900	▲ 12,300
経費合計	481,344	631,383	148,350	2,559,925	3,821,002	▲ 27,886
損益					▲ 1,196,794	▲ 33,255

(3) 最近月の入退会状況について

前回役員会以降の入会は 5 件、掛谷氏・石井氏・永野氏・金木氏・竹馬氏/5 口 6 名。40 期に入ってから累計は 28 口 37 名。

退会は 0 件、累計は 33 口 47 名。

(4) 経営強化・会員増強について（意見交換）

- ・BWC の経営方針は他の一般的なクラブとは異なる面がある、売上至上主義ではない
- ・一般的には満員の営業状況を目指す、BWC は現状 6-7 割程度に留まっている
- ・メンバーからの売上げが中心であり、今後 100 人程度のアクティブメンバーの積み増しが必要
- ・住地ゴルフからの紹介者にヒアリングすると BWC の既存メンバーと接点のある方が多い
- ・しかしながらメンバーから十分にリーチできていないのが実情であり、紹介の強化が有効
- ・シニア会員にメリットを訴求し、アクティブ会員を増やしていく取り組みが必要
- ・対外的なアピールが十分にできていないが、メンバー内の知見を活用し SNS 等の媒体を活用した訴求を行っていけないか
- ・ゴルフとの組み合わせ（犬・馬・農業）が BWC の特色であり、これも一つの訴求ポイントになるので

はないか

- ・専門家の雇用や有料広告をうっていきのは現状コスト的に難しい状況
- ・住地ゴルフのコンテンツを活用していくのがコスト・実現性の観点から有効ではないか
- ・ブルーリーフのマス向け宣伝と、BWC にフィットするゴルファーへのアプローチは区分して考えるべき

(5) その他

- ・ブルーリーフの「The Hotel」に犬と宿泊できる棟が増設された。高滝として営業するが、固定家賃ではなく宿泊数に応じた出来高制にする予定。

→上記(1)から(5)について報告を受け、協議の結果了承された。

以上

1. 松・桜 ナラ枯れについて 原口志津夫先生

3つの病害についての説明：桜、樅・檜、松（松食い虫）

1) 桜の害虫がすごい勢いで広がっていることについて

(1) 被害と特徴

・クビアカツヤカミキリは外来種で、特定外来生物に指定されている。（環境省）

被害にあった木を切って運搬することも禁止されている。（罰則あり）

300万円の罰金、または3年の懲役、法人の場合は最大1億円の罰金。

・発生を見る機会は少ないと思う。

フラスという木屑が大量に発生する。

見つけたら役所に届出をすること。

・幼虫は2年間木に留まっているので、その間に対策すれば被害がその木だけで済む。

木の組織を食べて、ボロボロにして木が枯れる。

対処の仕方により木が復活する可能性もある。

・梅桃梨梅などの梅科の木に感受性が高い。

膨大な勢いで隣の木に移るので、農園は立ちいかなくなるほどの被害を受ける。

(2) 卵の検出方法について

・ブラックライトを使用した卵の簡易検出法が考案された。

2ミリくらいの卵を樹皮に植え付ける。（目視困難で、ブラックライトを利用すると白く光る）

高さ5m位までのところにある。古い木のゴツゴツした幹の樹皮に卵を植える。

薬剤散布して殺すことが可能。（桜の木に入る前に殺せる）

但し、ブラックライトは人の目に入るとダメージになるので、十分気をつけること。

(3) 成虫対策について

・松材の薬剤は2ヶ月位持つ。拒食症にさせる薬剤なので、餓死させることができる。

・防風ネットの巻きつけによる被害防止方法もある。

・農薬を直接穴に入れて殺す方法は虫に届くかどうか、蛹室の場合は届くかどうかわからない。

薬剤の種類によっては疑問が残る。

(4) 薬剤散布について

・薬剤噴射は手順が複雑で効果がない場合もある。

薬剤を5cmごとに注入しないとイケない。薬剤は2年しか効かない。

・作業時間は2時間程度だが、日の出から始めないとうまくいかない。

薬剤散布は虫がいつ出てくるのかわからないので、うまくタイミングをみる必要がある。

虫が飛んでいる所の全ての木に撒かないとイケないという経験をした。

・木を燻蒸して薬漬けにしてしまう方法がある。

匂いが強く、密閉をきちんとする必要があり、人が周りにいると困難。

・脱出口の封鎖方法について

脱出しそうな穴に薬剤を入れて固めて埋めてしまう。

・生物農薬方法

カビなどを使って、感染させて虫を死なせる方法。（農薬が高く、視認性が困難）

(5) 補助金について

・各自治体で補助金を交付している。

1匹あたり五百円の商品券を大阪では配っている。

(6) 対応方法のまとめ

- ・食入孔への注入剤、樹幹注入剤、噴射、散布剤、燻蒸剤、生物農薬

(7) 質疑応答

- ・埼玉のゴルフ場で捕まえたことがある。

→薬剤は卵への散布が一番良いと思う。

卵が光るのが分かったのは最近で、農薬会社も確認を十分できていない。

卵が発見されたら、印をつけて他の木で農薬散布を試したり、刷毛で塗っても良いと思う。

学会発表もまだされていない。

見つけたらその他の周辺の木にも撒いた方が良い。

崖地や川の上昇気流のあるところなどでは7m位の高さで発見された実績がある。

- ・埼玉県熊谷市では公園の木がボロボロになっている。

→農薬を撒くには登録が取れているかどうかの問題になる。

撒いてから登録が取れていないことが分かると問題になる。

2) ナラ枯れについて カシノナガキクイムシ

(1) 原因

- ・カシノナガキクイムシクイムシに付いている糸状菌がメス虫の背中の穴（マイカンギア）に入り込んで木に移り枯らす。

(2) 対応

- ・木の根元に木屑がいっぱい出ているので分かるが、切るか樹幹注入しかない。
薬剤が2種類しかなく、被害が出たら切るしかない。

(3) 特徴

- ・ある日大量発生して交尾し（マスアタックと呼ばれる）増えるが、成虫を探すのが難しい。
- ・卵を産んだオスとメス以外も幼虫を育てる。

(4) 対策

- ・若い木に虫は入らないので、一定期間（7～10年）育ったら木を切るのが良い。
椎茸菌も老木では育成の成績が悪いので、ある程度育ったら切るのが良い。

(5) 注意点

- ・神奈川、埼玉は被害が出ており、切って積んで置いたところから被害が広がることもある。

3) 松食い虫 松材線虫病

(1) 原因

- ・マツノマダラカミキリに寄生して増える北アメリカから侵入したマツノザイセンチュウによる。
- ・4日で1世代の線虫なので、爆発的に増えるため3週間程度で枯れてしまう。
- ・木に入ると、根からの水が上がらなくなり必ず松は枯れる。
- ・松の木が枯れるとカミキリが卵を産み、大きくなって線虫を体につけた成虫が飛んでいく。

(2) 診断

- ・葉全体が枯れる乾燥害によっても枯れるので、松脂の出方により判断が必要。
- ・幹を切った後にヤニがだらだら出てくることがあるが、それは被害を受けていない。
- ・樹脂判定（ヤニ判定）をして判断し、冬はヤニの出が少ないが30分もあればガラガラ出る。
- ・2cmの太さの枝にも線虫は入る。

(3) 対応

- ・松枯れ病の薬剤は樹幹に注入すると7年間有効。
- ・葉っぱを薬剤メーカーに送ればどの程度残量があるか判別できる。(検証可能)
- ・伐倒した木をチップにして処分することが幼虫を確実に殺せる。
- ・実際に処方しなかった松の樹幹注入剤が大量にYahooに出てくることがある。
- ・樹幹注入してもすでに線虫が入っている木には効果がないのでさっさと伐採処分すべき。

(4) 質疑応答

- ・幹割れは不適切な薬剤処理の形成質被害によるもので、手順を守っていないことによるもの。薬剤を入れる前に穴のドリル屑を洗浄し、加圧容器を差して1時間以上入らない場合は上手く注入できていないので打ち替えること。樹幹注入がきちんとできる人は少ない。

2. 雑草防除と施肥の関係について 宇都宮大学名誉教授 小笠原勝先生

(宇都宮大学は旧制の宇都宮高等農林学校で、国際雑草学会の会長も担当)

- ・グリーン周りに使える土壌処理剤は？

1) グリーン周りの雑草管理の現状

- ・依然としてグリーン周りのスズメノカタビラ防除がゴルフ場の大きな課題になっている。それはなぜか？除草剤による薬害が怖くて、土壌処理剤をうまく使えていないから。

どんな土壌処理剤がグリーン周りに使えるのかをわかりやすく説明する。

(1) 除草剤の選択

- ・除草剤は600種類ある。
- ・ナトリウム塩を基本要素としている。
- ・1500種類あるので何を使っているのか？どうしてもメーカーが言っても難しい。
- ・使い切っていないのが、雑草が残っている理由。
- ・殺虫剤は効果があるが、除草剤は少し残る。
- ・よく考えるとこれならいけそうだというのが経験上ある。

(2) 除草剤の分類

- ・植物を工場に例えて、除草剤の効き方を各部門ごとに当てはめてみる
工場：電力供給部門、生産部門、管理部門 に分ける
電力をシャットダウンするのは危ない。
生産部門は多少壊れてもなんとか残る
管理部門はあってないもので、ジワジワ効いてくる
- ・電力供給の停止：工場全体の機能が即時に失われる
発電：葉緑素 変圧：電子伝達系 蓄電：ATP、NADPH
- ・電力供給を阻害する除草剤：電子伝達系阻害型、光要求型など
葉緑素は常温で光エネルギーによって水を分解し、グルコースに還元させる。
電子伝達系が阻害されると、活性酸素(毒)が生成される。
電子伝達系阻害剤を処理した葉では脂肪酸や色素が酸化されて褐変する。
冬は光が少ないから効かない。
- ・生産部門：各種の生合成阻害剤によって製造ラインが部分的に停止する。
生合成阻害剤は遅効的(在庫がなくなるまで)、葉が黄化する。
細胞分裂阻害剤は葉を矮化あるいは濃緑化させる
生産設備を阻害する除草剤：細胞分裂阻害剤(ウエイアップなど)

- ・ 管理部門：ホルモン剤によって製品発注や製品管理などが破綻する。
- ・ グリーン周りに使えるのは、抑制タイプの細胞分裂阻害剤
理由1：褐変タイプではなく、生育抑制タイプである。
理由2：水溶解度が低く、土壌吸着が強い。

(3) 除草剤の選択性

- ・ ベント芝に薬害を出さずに雑草を枯らすことで、殺菌剤や殺虫剤には無い除草剤に特有。
- ・ 植物体内の抱合反応（毒が入った時に毒を包んでしまう反応）を利用する
グルコースやグルタチオンとの結合による無毒化反応
蜂に刺された時に甘いものを飲むと無毒化されるのと同じ
- ・ 植物体内への吸収や移行性に基づく選択性
吸収速度：サトウキビ=豆
体内移動速度：サトウキビ<まめ
- ・ 生理的な選択性
植物体内の化学的な反応
CLを科学的にOHに変化させる。

(4) 結論

・ ベント用の選択性除草剤はあるのか？

芝用除草剤の選択性は植物形態、サイズ、土質などによって変わり得るので本質的でない。

対策1 薬害の出にくい除草剤を少量ずつ、こまめに撒く

対策2 根が深く張った（丈夫）なベントグラスを作る

- ・ ベントの根を伸ばすためには
グリーンの土壌構造を改善する、散水を控える、資材を利用する
亜リン酸の発根メカニズムを利用すると、リン欠乏に陥り根を深く伸ばすようになる。
ベストは散水を控えること。（暑熱ストレスがかかる前から始める）
- ・ 薬の残効性は3週間程度で、表層の雑草が枯死し深部から雑草が生え辛いため3ヶ月はウソ。

3. 芝生の健全性と微生物資材アグリバイオの使用方法について

東京アグリビジネス茂原エコロジー研究所所長 野口信一先生

- ・ 酷暑環境に対応するグリーン管理 化成肥料は悪か？

1) 薬害と夏枯れについて

何年にも亘って化成肥料を撒くから芝が弱くなると言われている。

なぜ薬害が出やすく、夏枯れが出るのかを考える。

(1) 窒素要求量と炭水化物生成量のバランスについて

- ・ 最近温暖化で35度以上がザラになり、30度以上が3ヶ月以上になる。
これからも右肩上がりが続くと思われるが、どうすれば芝を枯らさずに乗り越えられるか？
- ・ 芝の窒素要求量と光合成による炭水化物生成量のバランスを考えた芝生管理が必要

(2) 炭水化物主体の管理

- ・ 植物の光合成とは光エネルギーを使い二酸化炭素と水から炭水化物を作る反応。
植物の骨格のセルロースは炭水化物だが、一方で炭水化物は芝のエネルギー源でもある。
酷暑時の生存・回復力に直結するため、炭水化物蓄積を高める管理が必要。
- ・ 吸収される窒素の形によって必要となる総炭水化物量が変わってくる。
化成肥料重視では水と一緒に速やかにNが吸収され、アミノ酸合成に炭水化物が沢山必要にな

り、どんどん葉を広げ頻繁な刈り込みが必要になる。光合成も増えて水も多く必要になり長い1次根が必要になる。光合成で貯めた炭水化物が減ると植物の骨格のチクラ層まで成長に使い、弱い芝になり病害虫の影響を受け易くなる。

- ・葉を広げる→成長に合わせどんどん刈らなくてはならない→光合成が必要 →夏に成長障害
- ・夏を考えると根が長い方がよいとなるが、維持には365日激しい水の供給量が必要になる。今のところUSGAでは対策がクリアできず、酵素やサッチング、コアリングなどが必要。ゴルフ場はグリーン4ミリ以下、フェアウェイは10ミリと芝に厳しい管理になる。
- ・微生物資材だとアミノ酸のCHOをそのまま成長エネルギーに使い、炭水化物消費を抑えられて強固なチクラ層CHOを形成できて酷暑に強い芝になる。どうバランスを取るかが大事。

(4) アミノ酸の管理 (堆肥の管理)

- ・堆肥のアミノ酸CHOを吸収できると炭水化物消費が減り地上部が整い根も短くて済む。成長も緩やかになり、葉を整えるための作業もほとんどなくなってくる。

葉に程よいストレスを与えることはとても重要で、葉先を整える程度のグルーミング(ブラッシング)をすることで芝に抵抗ができて強くなる。

- ・残根があると10年以上経過すると発育障害になり、大きなコア抜きで凌ぐしかなくなる。
- ・1次根は水を求めるために伸びており、栄養は2次根で得ている。1次根は残根になるので、あまり長いのは良くない。10cmくらいあれば良い。
- ・化成肥料で窒素を多く与えると葉が多くなり、光合成が増えるため多くの水を求めて根を伸ばして炭水化物が多く消費されて、結局芝が弱くなる。窒素を与えると一度アミノ酸を合成するために炭水化物CHOが必要になるので、窒素主体でなく炭水化物主体の管理にすべき。

(5) 酷暑環境に対応するには

- ・緑が強ければ強いほど良い、目が詰んでいればいるほど良いというのがUSGAの標準。お金を準備できれば良いが、コストはできれば抑えた方がよいというならそれはできない。
- ・夏越えができていないゴルフ場は良いが、他のゴルフ場は年に3~4回化成肥料を撒く。ゴルフ場ごとに目標は異なるが、激しい環境変化では芝の健全性を優先して、微生物を活用した土壌環境改善をして炭水化物を軸にした持続可能なグリーン管理が有効。
- ・エチレン要素が良いという考えが昔あったが、最近で学会でも炭水化物、微生物、堆肥などに注目することが多くなってきた

4. 病害検定と芝部病害への対応について 東京アグリ 佐藤政宏先生

1) 本当に怖い誤診の話

- ・アンコンシャスバイアス：無意識の思い込み
ヒューリスティック：直感的な判断手法
スコトーマ現象：心理的盲点 見えているのに見えない
- ・病徴だけでの診断は危険
混合(複合)感染や耐性菌の顕在化等のリスクがある
虫害、乾燥害かもしれない。
第三者の意見、見識は重要と考えられる

2) 判断の手段

- ・実体顕微鏡 5~800倍
光学顕微鏡(100~1000倍)
- ・図鑑で見られる症状になると相当進んでいる状況
- ・病斑は植物自体に見られる症状

ラーシパッチなどは病徴

- ・シバオサゾウムシにやられて25～30年。
ネオニコ剤のおかげで脅威感は薄れた。

以 上